

令和8年度 病虫害防除技術情報 第5号

令和8年7月13日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

トビイロウンカの防除対策の徹底について

トビイロウンカは、令和元年および2年に県内各地で坪枯れが多発するなど甚大な被害をもたらしており、本年度も発生に十分注意する必要があります。苗箱施用として長期残効性のトリフルメゾピリム含有薬剤の普及が進んでいますが、早植えの水稻を中心に、苗箱施用剤の残効がなくなる時期にも差し掛かっており、今後の発生が懸念されます。

トビイロウンカは、本県の予察灯（豊後大野市三重町）においては確認されていませんが、7月6日に九州の一部の県で多数の飛来が確認されています。

そこで、他県で飛来が確認された7月6日を起点とし、有効積算温度を元に防除適期を予測したところ、ほぼ同様の結果が得られましたので、航空防除及び集団防除における計画策定等、今後の防除対策の参考にしてください。

1 トビイロウンカ防除適期の予測

表1 予測されるトビイロウンカの防除適期(7月6日飛来)

地点	防除適期 (第一世代幼虫)	防除適期 (第二世代幼虫)
国見	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3
中津	7/23 ～ 8/4	8/20 ～ 9/2
豊後高田	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3
院内	7/23 ～ 8/4	8/22 ～ 9/4
杵築	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3
武蔵	7/25 ～ 8/7	8/25 ～ 9/7
日田	7/22 ～ 8/3	8/19 ～ 8/31
玖珠	7/24 ～ 8/6	8/24 ～ 9/7
湯布院	7/25 ～ 8/8	8/29 ～ 9/14
大分	7/23 ～ 8/4	8/20 ～ 9/1
犬飼	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3
竹田	7/24 ～ 8/6	8/21 ～ 9/3
佐伯	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3
宇目	7/24 ～ 8/6	8/24 ～ 9/7
蒲江	7/23 ～ 8/4	8/21 ～ 9/3

※1 飛来予測日(7月6日)は、JPP-NET病害虫発生予測データベースーウンカ飛来予測システム(トビイロウンカ、(一社)日本植物防疫協会)及び気象再解析データを元に解析した。

※2 发育ステージに基づくトビイロウンカの防除適期は、飛来予測日(7月6日)を起点として、JPP-NET病害虫発生予測データベースー有効積算温度計算シミュレーションver.2及び各地点のアメダスデータ平均気温(7月9日までは本年度実測値、7月10日以降は平年値)を元に予測した。なお、予測の際に用いた有効積算温度及び发育下限温度は、表2を根拠とした。

表2 有効積算温度及び发育下限温度

ステージ	有効積算温度(日度)	发育下限温度(℃)
成虫	125	12.0
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

表3 トビイロウンカの発生時期別要防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月上旬 ～ 8月上旬	2頭／10株 (0.2頭／株)
8月中旬 ～ 8月下旬	10頭／10株 (1頭／株)

2 予察灯におけるウンカ類の発生状況

(1) トビイロウンカ

白熱式予察灯にて誘殺なし（7月9日時点）。

(2) セジロウンカ

6月24日に白熱球予察灯にて1頭を誘殺。

3 現地巡回調査及び予察圃場におけるウンカ類の発生状況

(1) 現地巡回調査（6月10～17日）

トビイロウンカは、早期水稻調査10圃場では発生が確認されなかった。

また、普通期水稻調査40圃場のうち調査可能な9圃場では、発生が確認されなかった。

なお、セジロウンカは、早期水稻及び普通期水稻では確認されていない。

(2) 予察圃場（7月6日）

トビイロウンカは発生が確認されなかった。

なお、セジロウンカは、2頭を誘殺。

4 防除上の注意事項

- (1) 薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

病虫害対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

